

合併協定調印式

日時 平成16年2月29日(日)
場所 西条市総合文化会館

合併協定調印式が開催され、事務局長が合併協議の経過について説明を行った後、合併協議項目38項目の調整方針案が記載された「合併協定書」に4市町長が署名押印を行い、加戸愛媛県知事、協議会委員、顧問の県議会議員の30名が立会人として署名を行いました。合併協定調印式での4市町長のあいさつを特集し、お知らせします。

合併協定調印を受け、平成16年3月議会に合併関連の5議案が提案されました。

伊藤西条市長

『誕生へ動き出す、 新生「西条市」』

より豊かな、より元気なふるさとをめざして、

本日ここに、西条市、東予市、丹原町及び小松町により、合併協定調印式の挙行にあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。

只今、加戸愛媛県知事をはじめ、合併協議会委員及び顧問の皆様方の立ち会いのもと、合併協定の調印が、滞りなく終了致しました。2市2町が一心同体となる、新しい「西条市」誕生への大きな第一歩が、ここに踏み出されたのであります。

もとより、市史に永く残るであろうこの記念すべき日を迎えることが出来たのは、今日に至るまで、真摯に協議を重ねてこられた合併協議会委員の皆様や、2市2町の市町議会議員及び住民の皆様、



様、更には、加戸知事をはじめ関係各位の、多大なる御理解と御協力の賜物でありまして、ここに改めて、厚く御礼を申し上げますのであります。

さて、本日の調印式に至る、これまでの道程を顧みますと、地方分権の進展に伴い、地方自治体に対しては、既存の枠組みを越えた合併による再編と、「自立・自治」の精神に基づいた地域づくりが、強く求められるところとなり

ました。こうした時代の変革と、激化する都市間競争の中、これまで独自の発展を遂げてきた各市町村も、その命運を賭した選択を迫られることとなりました。

その現実を前に、私どもは、今後の西条市のあるべき姿、進むべき道を熟慮しました末に、ふるさとでの自立と更なる発展のためには、合併こそが最良の選択であるとの思いに至ったものでござい

ます。そして折しも、共通する風土を持ち、かねてから緊密な関係にありました2市2町は、結束して「地域の自立的発展」を目指すという志において一致し、平成14年7月1日の任意合併協議会の設立に続いて、同年10月1日に法定合併協議会を設置し、合併へ向けてのスタートを切ったのであります。

任意合併協議会の設立以来、一年半にわたり38の合併協議項目について、精力的な協議を重ねられるとともに、各市町議会議員や地域住民の皆様、愛媛県御当局の御尽力と御指導のお陰をもちまして、昨年12月25日に開催された第14回合併協議会において、全ての協議確認が完了し、今日の調印式を迎えたのであります。

そして今、この圏域に、11万7千人の人口を擁する、新生「西条市」の種が蒔かれましました。私どもは、百年の大計をもってこの種を芽吹かせ、知恵と工夫を持って、併せて「人づくり」と「しくみづ

くり」による肥料を施し、元気あふれる大木に育て、子孫に引き継ぐべき責務を個々に強く感じるものでございます。

折しも国においては、「三位一体改革」の具体化をはじめとする構造改革が進められ、この圏域におきましても、少子高齢社会への対応や地域経済の再生など、取り組むべき課題が山積しております。前途は決して平坦とはいえませんが、感性豊かな人情、恵まれた水資源と自然環境、四国屈指の工業基盤、併せ農業基盤など、これら2市2町が誇る「総合力」をもってすれば、変革の嵐にも耐え、環瀬戸内圏域に十分な存在感を示すことができるものと確信しております。

今後におきましても、協力し合いながら、「人がつどい、まちが輝く快適環境実感都市」、新生「西条市」の実現に邁進して参る所存でございます。



あります。

青野東予市長

『更なる飛躍を 目指して』

合併協議会委員の皆様には、理想と現実のはざ間で様々な不安や期待、こういったものでございまして、大変多かつたと思いますが、常に真摯に、真剣に議論を頂ぎまして、本当にありがとうございます。

この地域で合併の議論が始まりました、4年ほどになります、決して道のりは平坦ではなかったと思えます。

私たちは、今、市町村の合併という過渡期を迎えておりますが、やはり念頭に置かなければならないのは、常に住民の皆様を守っていくということではないかと思っております。

住民を守るための手法は、時代の変化とともに変えていかなければならない。まさにその時期を迎えているのではないかと思えます。

「時を得るもの昌^{あき}える」と申しませんが、市町村の合併という時流を的確に捉えて、実行していくことが今求められておりますし、また、私は、現時点で最良の選択が出来たのではないかと、自信を持って胸を張れるような思いがいたしております。

この地域の中で先人の皆様、そ